



## 令和7年度決算の概要と事業報告

- (3)資金収支計算書 資金収支計算書は、当該年度の研究活動に対応するすべての資金の収入及び支出の内容を明らかにして、支払資金の収入及び支出の顚末を明らかにしています。

資金収支計算書要約 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで (単位:百万円)

| 資金収入の部     | 令和7年度 | 前年度   | 増 減   | 資金支出の部    | 令和7年度 | 前年度   | 増 減  |
|------------|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|------|
| 学生生徒等納付金収入 | 1,210 | 1,273 | △ 63  | 人件費支出     | 1,501 | 1,576 | △ 75 |
| 手数料収入      | 18    | 18    | 0     | 教育研究経費支出  | 547   | 453   | 94   |
| 寄付金収入      | 10    | 7     | 3     | 管理経費支出    | 182   | 160   | 22   |
| 補助金収入      | 835   | 775   | 60    | 借入金等利息支出  | 9     | 8     | 1    |
| 資産運用収入     | 0     | 0     | 0     | 借入金等返済支出  | 56    | 56    | 0    |
| 資産売却収入     | 0     | 9     | △ 9   | 施設関係支出    | 12    | 10    | 2    |
| 付随事業収入     | 1     | 1     | 0     | 設備関係支出    | 24    | 28    | △ 4  |
| 雑収入        | 64    | 124   | △ 60  | 資産運用支出    | 9     | 6     | 3    |
| 借入金等収入     | 0     | 0     | 0     | その他の支出    | 64    | 60    | 4    |
| 前受金収入      | 331   | 327   | 4     | 資金支出調整勘定  | △ 47  | △ 58  | 11   |
| その他の収入     | 234   | 189   | 45    | 支出の部小計    | 2,357 | 2,299 | 58   |
| 資金収入調整勘定   | △ 417 | △ 552 | 135   |           |       |       |      |
| 前年度繰越支払資金  | 453   | 581   | △ 128 | 次年度繰越支払資金 | 382   | 453   | △ 71 |
| 収入の部合計     | 2,739 | 2,753 | △ 14  | 支出の部合計    | 2,739 | 2,753 | △ 14 |

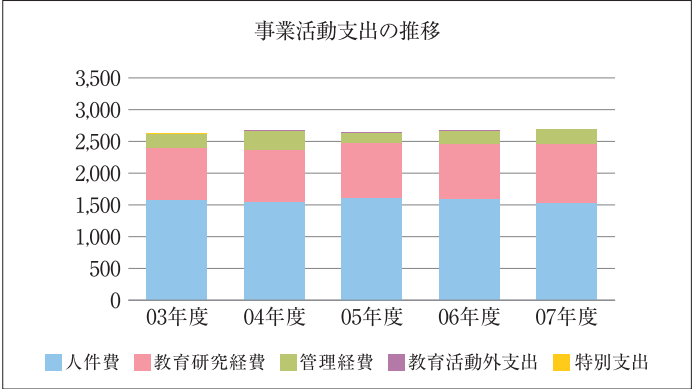
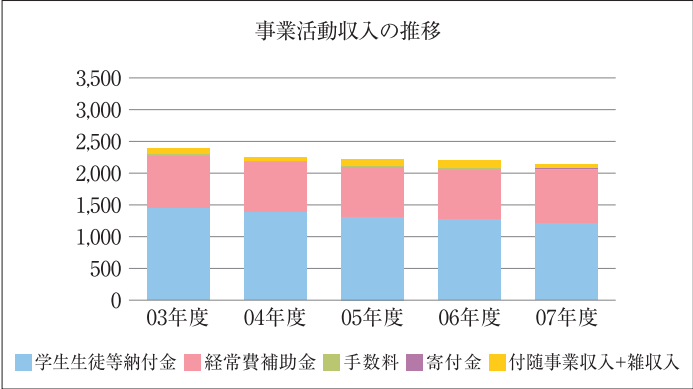
資金収支計算書の収入の部、支出の部について、事業活動収支計算書の収入の部、支出の部と同様の項目が多く含まれています。収入の部において、学生生徒納付金と雑収入の減少及び経常費等補助金の増加、またその他の収入の前期末末収入金(退職金交付金と施設型給付費)の増加を主要因とし、前年度比14百万円減少しました。

支出の部では、教育研究経費と管理経費の増加を主要因とし、その中でも、特に高等教育修学支援の為の奨学金費の増加により、前年度比58百万円増加しました。

以上の結果により、次年度繰越金は382百万円となり前年度比71百万円減少しました。

事業活動収支の推移 (単位:百万円)

| 収入の部       | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学生生徒等納付金   | 1,443 | 1,380 | 1,308 | 1,273 | 1,210 |
| 経常費補助金     | 826   | 786   | 775   | 775   | 835   |
| 手数料        | 20    | 20    | 18    | 18    | 18    |
| 寄付金        | 2     | 2     | 9     | 7     | 10    |
| 付随事業収入+雑収入 | 106   | 62    | 103   | 125   | 65    |
| 事業活動収入計    | 2,413 | 2,260 | 2,218 | 2,208 | 2,141 |
| 基本金組入額合計   | 0     | △ 554 | △ 38  | △ 5   | △ 55  |
| 支出の部       | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| 人件費        | 1,560 | 1,532 | 1,602 | 1,582 | 1,513 |
| 教育研究経費     | 826   | 820   | 855   | 862   | 939   |
| 管理経費       | 208   | 299   | 163   | 201   | 220   |
| 教育活動外支出    | 4     | 6     | 8     | 8     | (9)   |
| 特別支出       | 27    | 5     | 0     | 0     | (50)  |
| 事業活動支出計    | 2,625 | 2,662 | 2,629 | 2,661 | 2,672 |
| 基本金取崩額     | 147   | 0     | 0     | 0     | 28    |



## 2. 事業の概要

### 学校法人 尚綱学園

- (1)ガバナンス  
①寄附行為(令和7年4月改正)に基づき、「学校法人尚綱学園理事選任機関運営規程」及び「学校法人尚綱学園評議員選任・解任規程」を制定した。  
②理事長、常務理事、学長、校長及び学園事務局長を構成員とし、必要に応じて大学事務局長及び園長が出席する常勤理事会を原則隔週で開催した。重要事項の協議・検討及び意思決定を適切に行うとともに、業務遂行状況の把握を行った。  
③「令和7年度危機管理プログラム」に基づき、こども園においては毎月1回避難訓練を実施するとともに、大学・短大・中高においては令和7年10月に両キャンパスで避難訓練(実動訓練)を実施した。
- (2)財政  
①第二期中長期計画の改定に合わせ、中期財務計画の改定を行った。  
②令和6年度決算状況の共有を図るとともに、設置校別・部門別の収支状況および損益分岐点となる学生・生徒・園児数を分析し、その結果をSD研修において教職員へ周知した。
- (3)人事  
①令和7年4月に組織改革を実施し、効率的な事務組織への再編を行った。  
②令和7年5月19日からポータルサイト、勤怠管理システム、給与明細の電子配信の運用等を開始し、DXや働き方改革を推進した。  
③大学・短大における教員のプログラムに対する責任の明確化及び教育の質の向上を目的とした「基幹教員制度」の導入を検討した。
- (4)施設設備  
①武蔵ヶ丘キャンパス遊休土地について、売却先業者による開発申請手続きを進めてきたが、開発許可には至らなかった。
- (5)同窓会・後援会・地域との連携  
①7月11日から13日にかけて、中高文化祭、尚綱祭(九品寺キャンパス)及びホームカミングデイを同時開催し、同窓会との交流及び連携強化を図った。  
②後援会の支援として、設置校の各サークル、部活動及び同好会に対し、課外活動支援金が交付された。

### 尚綱大学・尚綱大学短期大学部

- (1)教育と学修の充実  
①建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進のために、大学・短大の全学科において自校教育の授業を実施し、受講生に理解度アンケート調査を実施した(理解度:大学99.8%、短大99.5%)。その調査結果と学習効果について学科会議及び教務連絡協議会等で検証を行うとともに全学で共有した。  
②教育方法及び教育体制の継続的な点検・改善を図るために、学科会議及び教務連絡協議会等で3つのポリシーの点検及び必要に応じた改善を行った。また、教育課程及び学修成果の点検のために、可視化した学修成果や授業改善アンケート結果について学科会議及び教務連絡協議会等で検証を行った。  
③令和8年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」申請のため、教育内容の点検及び科目の必修化等の対策を行った。
- (2)学生確保  
①併設高校の文化祭、大学の学園祭とオープンキャンパスを同時開催することで、オープンキャンパスに参加しない新たな層に本学の魅力を伝えることができた。  
②総合型選抜<第1回>エントリー方式の受付期間の延長と提出書類の簡素化を行った。また、総合型選抜<第2回>に学科特色方式・体験授業方式・事前課題型方式を導入したことで、出願増に繋がった。  
③現代文化学部において、入学定員を75名から65名に削減した。また、令和8年度からは、データサイエンスの知識や技能を学習基盤とし、文化研究や日本語・日本文学などの人文領域を学ぶことにより、現代社会における多様な課題の解決に取り組むことができる「文系デジタル人」の育成をするカリキュラムに変更した。
- (3)学修環境の整備  
①九品寺キャンパスでは、既存設備の定期的な点検及び劣化した設備等の更新として、大学図書館の空調機並びに1号館7階空調機の大規模工事を行うとともに2号館3階の床の張替え工事を行った。
- (4)学生支援の充実  
①学生生活における学生満足度については、「学生生活に関する実態調査」「疲労蓄積度調査」など各種アンケート調査の結果を学部学科に還元し、その調査・分析結果を全学委員会等で共有した。  
②特別な配慮を必要とする学生については、学生からの支援申請に基づき、学部学科と協議を行い、障害等の状況に応じた支援を行った。家計急変等に伴う経済的な問題については、奨学金の申請や納付時期の相談等、個別事案毎に対応した。  
③キャリア支援・就職支援については、夏季キャリアガイダンスでは、就職年次(大学3年次・短大1年次)向けのプログラムに加え、就職年次以外(大学1・2年次)向けの講座を実施し、早期からの就職意識の醸成を図った。春季キャリアガイダンスでは、就職年次の保護者を対象とした説明会を開催し、保護者の意向を踏まえた就職指導を実施した。また、職種・分野別の就職懇談会を開催し、参加した事業所から有意義な取組であったとの評価を得た。  
④インターンシップについては、大学コンソーシアム熊本主催のインターンシップに参加し、夏季には16先の事業所に22名(大学12名、短大10名)、春季には6先の事業所に11名(大学8名、短大3名)が参加した。  
⑤令和7年度卒業生の就職率は、大学95.2%、短大97.9%であった。
- (5)研究力の強化  
①科学研究費等競争的研究費に関する情報書類の閲覧・掲示にて随時行っている。科研費の説明・書き方について今年度の変更点を中心に動画配信を行った。本年度の科研費(9月締切分)の申請件数が30件となり、昨年度の28件から増加した。  
②子育て研究センターでは、乳幼児保育研究会の定例開催、附属こども園との連携による出前講座、第24回公開シンポジウム、第11回保育実践講演会を実施した。  
③論文を各ページの上部に記載し、レイアウトの見直しを行い、子育て研究センター紀要の「見やらい」第22巻を発行した。
- (6)社会連携の拡充  
①地域連携推進センターでは、継続及び新規の地域連携事業を推進するとともに、令和7年10月にイギリスのマンチェスターで開催されたIPBA(International Place Branding Association)において、「くまモン学」の研究報告を行った。  
②子育て研究センターでは、乳幼児保育研究会、保育Café、子育てCaféの定例開催、第24回公開シンポジウム等の実施を通じて、熊本の保育・子育ての向上に寄与した。  
③生活科学部1年生を中心とした学生が、「城下町くまもと七宝まつり」で体験型ブースを出し、500名を超える子供達や保護者の参加で街の賑わい創出に貢献した。
- (7)国際交流の推進  
①協定校と連携し、慈済大学(台湾)、高雄大学(台湾)、上海杉達学院(中国)、仁徳大学校(韓国)との交換留学をはじめとする交流活動を実施した。短期語学留学(受入、日本語)においては過去2番に多い13名を受け入れた。  
②マレーシア・台湾への短期語学研修を実施した。  
③グローバルへの意識づけのため、積極的にグローバルラウンジを活用したイベントを行い、昨年度より利用実績が増加した。
- (8)内部質保証  
①令和6年度認証評価及び令和7年度外部評価委員会からの指摘事項に対する改善策を検討し、取り組んだ。  
②IRを活用した調査データの可視化と学内共有を図るため、「大学IR支援サイト」「SD・FD研修サイト」に掲載し、教職員間の情報共有を促進した。

### 尚綱中学校・高等学校

- (1)教育の質向上  
①全校生徒の英語力向上という数値目標は達成できなかったものの、英語ディベートでは、中高一貫コースの高2生徒が10月の熊本大会で優勝し、12月の第20回全国高校生英語ディベート記念大会in埼玉に出場した。  
②国際交流の一環として、6月にアメリカ・デンバーからの訪問団生徒12名、引率3名を受け入れ、剣道・書道の体験とESS部との交流会を実施した。9月に姉妹校の韓国・鶴城女子中学校の生徒と本校生徒9名がオンラインで交流し、11月に中国・蘇州からの訪問団生徒16名、引率者3名を受け入れ、授業体験と部活動体験を実施した。  
③7月に熊本県のグローバルジュニアドリム事業に高1の生徒1名が参加し、台湾を訪問した。8月にニュージーランド語学研修に中学4名、高校9名が参加し、オネウェロエリアスクールで研修を実施した。また、11月より4ヶ月間、中2生徒1名がオーストラリアに語学留学した。
- (2)品性があり社会に貢献し得る生徒の育成  
①教科横断的な表現力の育成を目的として、中学校はビブリオバトル、英語でプレゼン、国語でスピーチ、短歌の発表会等の活動を実施した。また、中高生新聞への投稿、こどもの詩や水の作文等のコンクールに参加し、数多くの入賞を果たした。高校ではディベート甲子園、英語ディベート全国大会に出場した。  
②総合進学コースからの尚綱大学・尚綱大学短期大学部への進学率は目標の40%を下回り35%であった。また、特別進学コース、中高一貫コースにおける国公立大学及び難関私立大学への合格者数は目標の15名を下回り12名となり、達成率は80%であった。  
③学校評価に関わる生徒・保護者アンケートの「進路指導が適切に行われている」の肯定評価は生徒86%、保護者76%であり、目標値の80%以上は達成できなかった。
- (3)生徒支援の充実  
①高校では、国の就学支援金制度の変更に伴い、特技特待制度や特待内容等を学園と協議の上変更した。  
②生徒支援体制を充実させるため、本年度から特別支援教育コーディネーターを指名し、学校内外の関係者との連絡調整、相談窓口としての役割を担わせた。また、支援が必要な生徒に対する過不足のない指導・支援を実施するため、スクールカウンセラーを中心とした生徒情報共有会議と特別支援校内委員会をそれぞれ2回開催した。  
③自立した生徒会活動を実践するために、文化祭やクラスマッチにおいて、生徒主体でのルール等を設定して準備、運営を行った。また、7月に尚綱大学・尚綱大学短期大学部との合同文化祭を開催し、過去最高の来場者を得た。
- (4)地域貢献の推進  
①マチノガッコウ2025、熊本城マラソン、フードバンク熊本のボランティア活動に加え、地域自治体等から依頼されたイベントに、和装礼法部、ギターマンドリン部、吹奏楽部、合唱部、バントワリング部が出演した。  
②地域自治会等と連携した環境美化はできなかったが、バレーボール部の生徒らが8月の大雨により被害の大きかった上天草市に向かい、地区の公民館等の清掃のボランティア活動を実施した。また、日本財団が推進する海洋ごみ対策事業の一つである「スズメGOMI甲子園2025熊本大会」に昨年に続き参加した。  
③小中学生対象の第23回尚綱英語略唱大会を9月6日に開催した。また、中高一貫コース高2の探究活動において、NPO法人「せいば」と連携して、マウイの小学校の給食支援のためのコーヒーの街頭販売を下通樂会の協力を得て2月に実施した。
- (5)個性豊かな生徒の確保  
①在籍生徒の実態から、訪問学校の地域見直しと、管理職と職員が訪問する学校の区別化を図り、1学期は全教職員、2学期は管理職で学校訪問を行った。令和8年度の入学者数は、中学校が22名と目標の30名には及ばなかったが、高校は262名と目標の220名を大幅に上回った。  
②中学校部活動における外部指導者の導入や、スポーツ活動をクラブチームで行う生徒も多くなっていることから、各大会の視察を通じて情報を収集した。また、特技特待生の勧誘では特別進学コースへの入学を希望する生徒もあり、特技特待生の制度を見直すこととなった。  
③校則の見直しを生徒会が中心となり検討を始めた。制服・指定用品については、生徒指導部を中心に、指定用品の見直しを実施した。本年度導入したボロシャツと夏用・冬用のスラックスは、生徒から好評を得た。

### 尚綱大学附属こども園

- (1)子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実  
①園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践することができた。特に、年長児による自分たちで育て、収穫した大根のバザーでの販売や、「食に関する活動」は、試食体験等、保護者から高い評価を得た。  
②令和8年度県私立幼稚園連合会県大会及び九州地区大会問題提起園として、大学・短大と連携した園内研修を実施したり、授業への参加、講話への招聘等を通して研修の充実を図った。  
③DX化の推進では、ICT支援システム「コドモン」導入3年目となり、園児の出欠管理やバス運行状況、お知らせ、写真による怪我の状況報告、ドキュメンテーション機能の活用などの利用を通して、保護者とのコミュニケーションが以前より円滑になった。  
④小学校に見直しをもって入学できるように、ひらがな・かず・英語遊びや近隣小学校1・2年生と年長児の交流を実施した。
- (2)子育て支援の充実  
①在園児保護者への支援は、「子育て相談会」「お誕生会」「おしゃべりカフェ」「親と子のつどい」などが好評だった。  
②子育て支援ルーム「どんぐり」の活動では、制作やリトミック、知育ヨガ、講話など様々な活動を準備し、参加者からはとても好評だった。
- (3)次世代保育者の養成  
①大学(子ども教育学部)・短期大学部との実習連絡会などで実習生の情報共有や「実習のしおり」を通して実習の指導内容の共通理解に努め、実習生にとって充実した教育実習につながったと考える。  
②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与することができた。  
③高校生、幼児教育学科、大学生の教育実習、自主実習だけでなく、中学生の保育体験なども積極的に受け入れ、附属園としての役割を果たすことができたと考える。
- (4)自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保  
①令和8年度の募集では3歳1号園児が減少し、年少クラスを1クラス減にすることになったが、公定価格の引き上げもあり、収支の均衡はおおよそ保つことができた。  
②収支均衡を実現するためにも定員の見直しへの対応が必要となり、現在押し進めているところである。令和8年度より1号の利用定員の見直しを行い、従来の1号200名を170名にすることが決定している。令和7年度4月1日時は、261名だったが、次年度同日は243名の予定である。  
③尚綱学園HP「お知らせ欄」等で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を積極的に行った。